

平成 27 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立阪南中学校

平成 28 年 3 月

大阪市立阪南中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 学力向上をめざし、生徒にとって分かりやすく、興味関心を持って集中できるような授業の工夫、改善を図ることはできてきた。学力向上委員会を中心に、授業評価も含め保護者にも分かりやすい学力向上をめざす。
- あいさつや言葉づかい、学校のきまりを守る等の規範意識は育ってきている。学校行事や学年行事の取組、委員会活動や特別活動により、自分にはよいところがあると思う（自尊感情）生徒の割合は高いが、更に高められるよう取り組んでいく。
- 授業・体育的行事・部活動を通して、運動に関わる環境づくりに努めることで、健康や運動に関しての意識は高まっている。更に、体力向上・運動能力向上に向け取り組んでいく。中学校給食の全員喫食に向け、食育について全体計画を見直し計画的に実施していく必要がある。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
 - ・「学校の授業はわかりやすい」
 - ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、毎年、前年度より向上させる。
 - ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 (カリキュラム改革関連)
 - ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」 (ガバナンス改革関連)
- 平成 27 年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていますか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 70% 以上にする。 (マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を 80% 以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
 - ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」
 - ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」
 - ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」 (カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、毎年、前年度より向上させる。
- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」（カリキュラム改革関連）
 - ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」（カリキュラム改革関連）
 - ・「P T A と学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」（ガバナンス改革関連）
- 毎年度末の調査において不登校生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。 (カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
(カリキュラム改革関連)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を毎年、前年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より 3 ポイント以上増加させる。
- ・「学校の授業はわかりやすい」
 - ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。
- ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 (カリキュラム改革関連)
 - ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」 (ガバナンス改革関連)
- 本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていましたか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 80% 以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 本年度の本校アンケート調査における、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を70%以上にする。
（カリキュラム改革関連）
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より3ポイント以上増加させる。
- ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」
 - ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」
 - ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」
- （カリキュラム改革関連）
- 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。
- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」（カリキュラム改革関連）
 - ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」（カリキュラム改革関連）
 - ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」（ガバナンス改革関連）
- 本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。
（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。
（カリキュラム改革関連）
- 本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年度より1ポイント以上増加させる。
（カリキュラム改革関連）
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。
（カリキュラム改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

「本校の生徒アンケート・保護者アンケート」や「授業アンケート」等の結果で示された数値より、多くの項目において年度目標を上回っており、目標は概ね達成することができた。

【視点 学力向上】各教科でI C T機器や視聴覚機器を活用した授業を取り入れたことで、生徒が意欲的に学習に取り組み、授業内容の理解につながった。全教員が1回は研究授業を行ない、また他の教員の授業を参観することで、個々の教員の授業力の向上につながり、生徒にとってのわかりやすい授業づくりに役立った。

【視点 道徳心・社会性の育成】学校行事や日々の学校生活の中で、秩序が保たれつつも、生徒が自主的に活動できること目指し、それぞれの取り組みをすすめた。その結果として、生徒の規範意識の向上や自尊感情の高まりにつながった。

【視点 健康・体力の保持増進】体育大会やマラソン大会等の体育的活動の充実を図った。また、優秀な成果を上げた部を表彰することで部活動の活性化につながった。委員会活動では、環境委員によるポスター制作や啓発活動を実施し、生徒の健康への意識が高まった。

次年度も、生徒・保護者がより満足できる学校生活を送ることができるよう、教育活動のさらなる充実を図っていく。

大阪市立阪南中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より3ポイント以上増加させる。 ・「学校の授業はわかりやすい」 ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)	
○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。 ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」 (ガバナンス改革関連)	B
○本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになりますか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で80%以上にする。 (マネジメント改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【習熟度別少人数授業の充実】 生徒の学力・学習意欲を向上させる教科指導のあり方や、指導内容の工夫改善に努め、個に応じた指導の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)	
指標 • 国語において、古典と文法の小テストで平均6点以上にする。 • 数学において、定期的に行う計算・方程式の小テストで、10点満点中4点以下の生徒を0人に近づける。 • 英語において、事前事後テストを行い、その項目において、約5%以上アップを目指す。	B
取組内容②【自主学習習慣の確立】 地域ボランティアと教員が連携し、放課後や長期休業中に自主学習や補充学習の場を設定することで生徒の学習を支援する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 学習会への参加人数を1回平均30人を目指す。	
取組内容③【言語力や論理的思考能力の育成】 各教科で、多様な言語活動を展開するとともに、朝学活時の読書週間や図書室開放により、言語力の育成を図る。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 11月に読書週間を設定、図書室を昼休みに毎日開放する。	

取組内容④【ＩＣＴを活用した教育の推進】		
視聴覚機器やＩＣＴ機器を活用した授業に取り組み、研究・研修を行う。		
指標	・各教科で、ＩＣＴ機器や視聴覚機器を活用した授業に取り組む。 ・ＩＣＴ機器に関する校内研修会を年間3回以上実施する。	A
取組内容⑤【環境を守る意識の醸成】		
学校前の道路（グリーンロード）を拠点として、校内や周辺地域で環境に関する取組みを行う。		A (カリキュラム改革関連)
指標	創作カルタの作成、花の植え替えを年間2回以上、生徒主体の清掃活動を各学期1回実施する。	A
取組内容⑥【授業研究を伴う校内研修の充実】		
全教員が研究授業を行い、参観後のチェックシートを活用した協議を充実させることにより、指導力の向上に取り組む。		A (マネジメント改革関連)
指標	全教員が研究授業を行うとともに、他の教員の授業を必ず1回は参観する。	
取組内容⑦【教育環境の整備】		
現在の会議室を、生徒が豊かな人間性や創造性を高められるよう、ＩＣＴを活用した授業や生徒によるグループディスカッションやプレゼンテーションを行うための、座席や机をフレキシブルに変更できるフリースタイル型多目的創造創作ルーム「阪中Creation Room」に改造する。		A (マネジメント改革関連)
指標	多目的創造創作ルーム「阪中Creation Room」の年間活用100回を目指す。	
取組内容⑧【家庭・地域との連携の推進】		
・学校の様子を積極的に発信する。 ・PTAや地域との連携を深める。		A (ガバナンス改革関連)
指標	・学年だより、生活指導だより等を毎月1回は発行し、学校ホームページを年間100回以上更新する。ホームページ年間アクセス数を25,000件を目指す。 ・祭礼巡視、夜間巡視の活動に10人以上の参加を目標とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①【国語】文法や古典において重点をおいて実施した。二つのコースに分けて授業を行い、習熟度別授業後で小テストでは、平均6点以上の結果で学習効果があった。	
【数学】習熟度別授業の取組みにより、1回目の小テストで4点以下であった生徒の中で、2回目の小テストで5点以上とができる生徒が増えた。少しずつであるが、数学が苦手な生徒の基本的な計算力が定着してきている。	
【英語】各学年で基礎コースと発展コースに分割した習熟度別授業を行った。その授業後におこなったテストでは、事前のテストより全学年ともに6点以上向上した。また事前事後のアンケートにおいても、「英語の学習がわかりやすい」と答えた生徒が75.5%から88.0%に上昇した。	
②定期テスト前の質問学習会には、1回平均30人近くの生徒が参加したが、自主学習を目的とした火曜日と木曜日の学習会は、1回平均10人くらいの生徒しか参加することができなかつた。原因として、昨年と比較し部活を引退した3年生の参加人数が少なかったことが考えられる。	
③図書室の整備のため、5月から開館を始め、図書委員を中心に昼休み(20分)に図書室を開館している。開放日は133日で、利用生徒のべ2570人。本の貸し出しのべ1157冊。読書週間は(10月26日～11月13日)に学校全体で取り組んだ。廃棄本のリサイクル活動を行った。10月から図書館補助員が週二回来校し、図書室の整備・本の整理や貸し出しを行っている。	

- ④ICT教育推進研究員による「書画カメラとプロジェクターの活用について」の研修を行った。今年度は、すべての教科（9教科）でプロジェクターや書画カメラを活用した授業を実施することができた。
- ⑤6つのテーマからなる創作カルタは、1年生が文化発表会への取り組みとして作成した。下校時に足を止めて見る生徒も多く、部活動・家族・夢・平和などに対する意識がいっそう高まった。また、花の植え替えは生徒会や環境委員を中心に3回行った。
- ⑥(1)9月に全教職員による研究授業を実施し、参観後チェックシート等を活用し、相互に意見交流を図った。(2)年次研修者による教科・道徳の研究授業を実施した。(3)若手教員とベテラン教員がいつでも相互に授業参観できるようにした。
- ⑦校長経営戦略予算により、会議室の机、椅子を可動式の軽量、コンパクト化を図ったことにより、会議室の有効面積が拡張されるとともに、机、椅子の配置がフレキシブルに変更できるようになった。それにより、大小の諸会議、進路指導に伴う生徒面接指導、元気アップ学習会、生徒個別指導、生徒会活動、PTA活動等多目的に活用された。利便性が非常に高まったことから、12月当初の改造以降、活用回数は50回を超えており、年間活用指標を上回るペースで活用することができた。
- ⑧学年だより、生活指導だより、保健だより、栄養だより、食育つうしん等を定期的に発行するとともに、全校集会での校長講話をホームページにアップし、学校の日常を積極的に発信することができた。また、ホームページについては350回を超える更新を行い、アクセス数も前年度比倍増となる30,000件を超えることができ、保護者や地域に対して教育活動を積極的に情報発信することができた。夏季祭礼巡視は、毎回15名～20名、夜間巡視については、毎回10名以上の参加で地域と連携して行うことができた。

次年度への改善点

- ①〔国語〕文法を苦手とする生徒が多いので、苦手意識を持たせないことが必要になってくる。そのため、つまずきやすい問題を個々の生徒の理解度に合わせて準備する必要がある。
- 〔数学〕今年度は教室を分割して授業を行うことができた。基本コースで、生徒の理解力に差があるので、指導方法を工夫していきたい。
- 〔英語〕学年が上がるにつれ学力の差が顕著になっているため、それぞれの学力に応じた習熟度別授業への希望は多い。授業形態を工夫し、ICT教材なども取り入れ個に応じた指導を充実させたい。
- ②担任や教科担当から、学習習慣が身についていない生徒への声かけをさらに行う必要がある。また、今年度後半に行ったスタンプカードなど、出席を促す工夫をさらにする必要がある。
- ③図書委員を中心に図書室の本、学級文庫の整理と充実を図る。昼休みの開館だけでなく、放課後の開館をめざす。図書館補助員と連携して、さらなる図書室の整備・充実を図りたい。本の貸し借りを、パソコンで管理することをさらに進めたい。
- ④タブレット端末40台の運用の仕方を考えつつ、誰もが活用できるように研修を行う。また、タブレット端末と大型テレビや書画カメラ等の活用の連携や、どういった授業のシーンで使用するのか、また、授業だけではなく学級活動や行事なども含めて、教育推進の観点において取り組む必要がある。
- ⑤委員会や部活動、ボランティアのメンバーによる清掃活動など、生徒が主体的に考え実践できる取り組みをすることにより、グリーンロードや環境に対する意識を高めさせる。
- ⑥全教職員による研究授業を継続して行う。
- ⑦『阪中Creation Room』として、多種多様な目的での活用を積極的に行うとともに、ICT機器を利用した授業の積極的な活用推進を図っていきたい。
- ⑧学年だより等をホームページにアップすることで、ペーパーレス化を推進するとともに、保護者に対してホームページへのアクセスや閲覧の周知徹底を図る。また、ホームページの学校日記の更新をより一層行い、学校の日常や教育活動の保護者、地域への情報発信をより積極的に行う。夏季祭礼巡視や夜間巡視への参加を増やし、地域との連携をより一層深める。

大阪市立阪南中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ○本年度の本校アンケート調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を70%以上にする。 ○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より3ポイント以上増加させる。 ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」 ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」 ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」 ○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。 ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」（カリキュラム改革関連） ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」（カリキュラム改革関連） ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」（ガバナンス改革関連） ○本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。	
	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の推進】 私たちの道徳や副教材を活用するとともに、体験的な活動を通して生徒が豊かな感性や情操をはぐくみ、基本的な道徳心・規範意識を培う。 （カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連）	B
指標 ・年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて取り組む。 ・道徳の研究授業を年間3回以上実施する。	
取組内容②【人権を尊重する教育の推進】 互いに違いを認め合い、共に生きる力を育てるため、「人権教育・啓発推進計画」に基づき取組みを推進する。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて取り組む。学期に1回校内研修を行う。	

取組内容③【特別支援教育の充実】		
	通常学級に在籍する支援を要する生徒について、全教職員で理解を深め、支援策を考える。また情報交換も密に行う。	(マネジメント改革関連)
指標	校内研修を2回以上実施する。一貫した生徒の支援を行うために、冊子を作成し、情報交換を行う。	B
取組内容④【いじめ、不登校への対応】		
	子どもに寄り添う指導を行い生徒理解に努めるとともに、家庭との連携を密にして対応する。	(カリキュラム改革関連)
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の教育相談週間を設ける。 ・毎週末、振り返りシートを実施し、気になるときは個別に教育相談をする。 	A
取組内容⑤【防災教育の推進】		
	「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練及び研修を行い、学校の危機管理体制を機能させる。	(カリキュラム改革関連)
指標	通常の避難訓練、防災講話、消防署・区役所・地域の協力の防災訓練に加え、学校独自の防災訓練を実施する。	B
取組内容⑥【美化・環境整備】		
	安心・安全な学校づくりに向け、環境整備を行うとともに、生徒の美化意識の向上に努める。	(カリキュラム改革関連)
指標	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備について各学期に3回の定期点検を行う。 学期ごとに大清掃、油引きについては最低2回行う。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①各学年で私たちの道徳や副教材などを活用して取り組んだ。2年次・5年次研修を兼ねて、校内で「道徳」の研究授業を3回実施した。	
②3年は長崎修学旅行・夏休みの登校日・文化発表会で平和学習に取り組んだ。また、1学期に性教育(性感染症)、2学期にはPTA人権講演会で、日本国際飢餓対策機構の方に講演していただき、国際的な飢餓・貧困について学んだ。2年は「スマイル・プロジェクト」に取り組み、阿倍野区人権教育実践交流会で活動報告を行った。また、3学期に認知症についての福祉学習、性教育(男女交際)の取り組みも実施した。1年は1学期にハンセン病学習、夏休みの登校日に平和学習、2学期に性教育(命の大切さ)、3学期に福祉体験学習を実施した。人権教育についての校内研修は、2学期に若手研修会とともに1回実施したが、1学期と3学期については実施できなかった。	
③8月に外部より講師を招いて研修会を行った。それに伴って、通常学級に在籍する支援を要する生徒の個別相談の場を設け、現状での手立てや目標を講師の方のアドバイスを元に考えることができた。また、一貫性のある取り組みを継続して行うことを目指し、通常学級に在籍する支援を要する生徒についての手立てを考え、全職員の共通理解を図る研修会を11月に行った。	
④振り返りシートを毎週末に書かせることにより、生徒の変化に気づき対応することができた。4月、8月の学期始まりの5日間で放課後の時間を利用して、教育相談を実施した。個別に教育相談を行うことによって、生徒とのコミュニケーションを密にすことができ、信頼関係を築くことができた。	

⑤1学期には、地震及び津波を想定した避難訓練(全学年)、2学期には、大阪880万人訓練への参加(全学年)、地震による災害に関する研修(1年)、可搬式ポンプによる消火訓練等の防災訓練(2年)を実施し、防災意識の向上を図った。

⑥安全な学校を目指し、管理作業員・健康教育部が中心となり、月1回の安全点検、学期末毎の破損個所調査を実施した。また、環境美化啓発の一環として、環境委員が生徒会と協力し、グリーンロード沿いの緑化活動の中心となり活動した(通年)。

次年度への改善点

①道徳・人権教育委員会を中心に、全教職員で取り組み方を考える必要がある。また、校内研修や研究授業の持ち方を考えていきたい。

②「人権教育・啓発推進計画」、「年間指導計画」の見直しをして、各学年で、継続して実施する取り組みの確認や引継ぎが必要である。

③今年度は特別支援学校のスクールアドバイザーを招いて研修会を行ったが、来年度は制度が廃止されるため、専門的な外部講師を招いて研修会を行い、より一層生徒の理解と支援に役立て深めていきたい。また、年度が変わっても、支援を要する生徒に対して、一貫した支援ができるよう学年を超えての情報交換も密にできるように工夫していきたい。

④次年度も引き続き、教育相談や振り返りシートを活用する取り組みを行い、生徒とのコミュニケーションをより密にするとともに、早い段階で生徒の変化に気づき、適切に対応していきたい。

⑤大阪880万人訓練への参加・地震及び津波の避難訓練・防災講話(1年)・防災教室(2年)を実施し、アンケートには、約9割の生徒が、災害時の対応について、概ね理解していると答えており、緊急対応の知識はある程度定着しているように思える。しかし、「自助」「共助」を考えると、災害時には、地域の活動の担い手となる「防災リーダー」の育成には至っていない。また、東日本大震災から5年が経ち、メディアでの取り上げも少なくなり防災意識が低下しており、新たな取り組み、工夫が必要である。

⑥美化意識を向上させるため、環境委員がポスターを制作したり、率先して清掃活動をしたり、呼びかけをするなど取り組んできたので、清掃活動には前向きに取り組んでいる。しかし、昨年度と比べ、校内にゴミが落ちていることが、多くなっているので、さらなる啓発活動及びその工夫が必要である。

(様式2)

大阪市立阪南中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年年より1ポイント以上増加させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【体育的活動の充実】</p> <p>体育大会を充実させるとともに、各学年で体力づくりのための、スポーツ大会等の取組みを行う。</p>	B
<p>指標 各学年ともに新体力テストを実施し、すべての種目においてT得点50以上を目指す。</p>	
<p>取組内容②【健康な生活習慣の確立】</p> <p>健康への关心を高めるような情報提供や啓発活動を行う。</p>	
<p>指標 定期健康診断等の機会を利用し、学期に複数回情報提供を行う。</p> <p>毎月の生徒環境委員会による、ポスター作りと共に、全校集会で啓発活動を実施する。</p>	A
<p>取組内容③【健康に関する現代的な課題への対応】</p> <p>自己の心身の発達と変化を理解し、健康に対して正しい知識を身に付けさせる。</p>	
<p>指標 警察署と連携し、2年生で薬物乱用防止教室を実施し、1年生でたばこの害について学習する。</p>	B
<p>取組内容④【食に関する指導の充実】</p> <p>食について正しい理解と望ましい習慣を身に付けさせ、健康的な生活を営む態度を育てる。</p>	
<p>指標 食に関する研究授業を年間2回以上実施する。昼食時に毎回食材に関する内容及びクイズを実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①体育大会やマラソン大会など体育的活動においては体育の授業を中心に個々の力が發揮でき充実した内容となった。3学年ともに新体力テストを行い各自の体力を見直し、また今後の活動に生かせるようなきっかけにした。

②定期健康診断結果は、視力、歯科については、全員配付を行った。その他の検診の結果については、有所見者のみ結果を配付(治療勧告)した。

その他啓発活動等における機会として、歯科校医による『歯と口の健康教室』を1年生に実施し、むし歯になる可能性が高い歯(CO)についての対応やむし歯になりにくい生活行動について、基本的な生活習慣の重要性について学習した。

さらに今年度については歯科校医と連携し『歯と口の健康教室』の事後指導として、定期健康診断結果でむし歯になる可能性が高い歯(CO)を保有する結果のあった生徒を対象に、歯科校医による臨時健康診断を3学期に行った。歯と口の健康管理について、個別に指導と助言(COが進行していないかどうか、歯みがきができているかどうか、医療機関受診の必要性があるかどうかなど)を受ける機会を設定した。

むし歯未処置等の医療機関要受診の生徒に対しては、2学期末の保護者懇談時に学級担任から受診票の再配付(治療勧告・再発行)を行い、受診率・処置率のアップにつなげた。

保健室へ毎回同症状で頻繁に来室する生徒に対し、学級担任との連携により、担任から保護者へ連絡を行い、充実した学校生活が送れるよう、学校生活で困っていることや家庭生活の見直しについて話し合う機会をもち、学校での支援について整理を行ない、学年や学校全体での支援共有につとめた。

③7月に2年生を対象に、阿倍野警察署による薬物乱用防止教室を実施した。また、12月に1年生を対象にタバコの害についての学習、3月に1年生を対象にライオンズクラブによる薬物乱用防止教室を実施した。

④2年生家庭科「6つの基礎食品群」の単元で1学期に授業を実施した。現在、自分がどんな朝食をとっているかを書き出し、栄養バランスがとれているかを再確認し、理想の朝食とするためにはどうすれば良いのかを考えられる内容とした。また、食育への意識向上を図る為、「食育つうしん」「栄養だより」を毎月発行し、栄養や食生活などについて啓発している。日常的には日々の給食時の放送や掲示物などを通じ、身近な食材や料理についての基礎知識を高め、季節に応じた食材への理解や周知を図っている。2学期から、給食のレシピを配置し、持ち帰って家庭でも作って食べられるよう取り組んでいる。

次年度への改善点

①新体力テストにおいて、いくつかの種目でT得点50超えることはできなかつたので、達成できるように内容の見直し、充実を図る。

②定期健康診断の実施ならびに結果通知、治療状況の把握につとめ、疾病の早期発見・早期治療を推進する。

保健室来室利用者の対応については、学級担任や各担当者との連携により、保護者へ連絡を行い、充実した学校生活が送れるよう、学校生活で困っていることや家庭生活の見直しについて各担当者と相談し、学校での支援について整理を行ない、学年や学校全体での支援の共有を推進する。

③次年度も警察等と連携し、今年度と同様の取り組みを実施すると同時に、学年集会や学級でも話をていきたい。

④食育月間や全国学校給食週間に食への関心をより深める為、2年生の委員会で取り組みを行つた。今後は全学年の委員会で取り組めるようにし、さらに食に関する知識や関心を深めていきたい。

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立阪南中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価（最終評価）結果は妥当である。
- ・生徒アンケート、保護者アンケートの結果から、学力向上・道徳心の育成・健康において、生徒の現状に合った教育活動（取り組み）が進められていることを読み取ることができる。
- ・体育大会や合唱コンクールなどの行事、入学式や卒業式を見ても、学校の規律が保たれている中で、生徒たちが充実した学校生活を送っていることを感じとることができた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より 3 ポイント以上増加させる。

- ・「学校の授業はわかりやすい」
- ・「先生は教え方をいろいろ工夫している」 (カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。

- ・「学校の授業はわかりやすく工夫されている」 (カリキュラム改革関連)
 - ・「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」(ガバナンス改革関連)
- 本年度の授業アンケート調査で、「授業を受けて、授業の内容がわかるようになっていますか」の項目について、肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）をする生徒の割合を、全学年で 80% 以上にする。 (マネジメント改革関連)

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。
- ・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果から、学力面において高い評価である。今後も更なる学力の向上を目指してもらいたい。
- ・学校アンケートにおいて「授業をわかりやすく工夫されているか」「授業の内容がわかるようになっているか」は、年度目標を上回っており、取り組みの成果であると考える。
- ・授業力アップには、教員の相互参観をすることは効果が大きいと考える。研究授業を含め、ダイナミックに展開していくことを望む。
- ・タブレット端末、書画カメラ等の I C T 機器を活用した授業の充実に期待する。

年度目標：道徳心・社会性の育成

○本年度の本校アンケート調査における、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をする生徒の割合を 70% 以上にする。 (カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする生徒の割合を、昨年度より 3 ポイント以上増加させる。

- ・「あいさつや言葉づかいはきちんとできている」
- ・「学校のきまりを守り、公共物、私物を問わず大切にしている」
- ・「清掃活動に積極的に取り組んでいる」 (カリキュラム改革関連)

○本年度の本校アンケート調査で、次の各項目についての項目について、肯定的な回答（そう思う・ある程度そう思う）をする保護者の割合を、昨年度より向上させる。

- ・「阪中生は、全般的に落ち着いた学校生活を過ごしている」（カリキュラム改革関連）
- ・「学校では、人権尊重の立場に立った教育活動が行われている」（カリキュラム改革関連）
- ・「P T Aと学校は、相互に協力し教育向上に努めようとしている」（ガバナンス改革関連）

○本年度末の調査において不登校生徒の割合を、昨年度より減少させる。

（カリキュラム改革関連）

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。
- ・学校全体の秩序が保たれていることが、保護者アンケートにおける「落ち着いた学校生活を過ごしている」割合が高いことでわかる。また、「自分にはよいところがある」を肯定的に答える生徒が多いことにも繋がっていると考える。
- ・不登校生徒への周りの友だちの関わりや、スクールカウンセラーとの関わりにより、不登校生徒の減少に期待したい。
- ・L G B Tについて、理解を深める取り組みの必要性を感じる。

年度目標：健康・体力の保持増進

○本年度の本校アンケート調査で、「病気の治療などに努め、健康を意識している」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする生徒の割合を、昨年度より増加させる。

（カリキュラム改革関連）

○本年度の本校アンケート調査で、「自分の子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる」の項目について、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）をする保護者の割合を、昨年度より1ポイント以上増加させる。

（カリキュラム改革関連）

○全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度より向上させる。

（カリキュラム改革関連）

- ・達成状況の評価に関しては妥当である。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果が、意外に低いことに驚いている。グラウンドが広くないことや、地域に広い遊び場所がないなど、環境面も影響しているのではないか。また、子どもの頃から筋力の高まる遊びをしていないことも要因として考えられる。
- ・「健康を意識している」割合が高い、今後は食育に関する指導の充実を図って欲しい。

3 今後の学校運営についての意見

- ・従来の概念では生活指導も正解を導けない、生徒一人一人を見つめていかないといけない時代であると思う。
- ・体育大会、合唱コンクール、卒業式等とても素晴らしい、感動させられた。今後も先を見据えて計画的な学校運営をお願いする。
- ・来年度も、生徒・保護者が満足できる学校生活が送れるように、教育活動を進めていただきたい。

(様式 6)

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

◇ 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	学年、生活指導部を中心に全教職員の共通理解のもと指導を行った。しかし、件数は昨年度と比較するとわずかの増加となった。来年度は、生活指導における校内体制をより強化する必要がある。
② いじめの状況等	毎週末に“振り返りシート”実施しいじめの未然防止、早期発見に努めた。また、学級担任、学年教員を中心に、生徒に寄り添った指導を行なった。しかし、件数は昨年度と比較すると少し増加した。来年度は、いじめは絶対に許さないという教職員の共通理解のもと、いじめの未然防止に向けさらに力を入れる必要がある。
③小・中学校における不登校の状況等	担任・学年教員を中心に個々に応じた対応をし、一部の生徒は別室学習など登校に向けて指導を行った結果、改善が見られた。しかし、数は昨年度より少し増加した。今後は、スクールカウンセラーやこども相談センターなどの関係機関と連携を図り、不登校生徒の減少を目指す。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること